



※「コミュニティキッチン ぼらん」は協会が立ち上げた、  
就労困難とされた人たちと共に働く惣菜のお店です。

## 「ぼらん通信 No.7」

2011年9月



「コミュニティキッチン ぼらん」には、すっかり顔なじみになった常連のお客様があります。

- 週2～3回、メニュー表を参考に奥さん要望の惣菜名を書いたメモを持って来店する「メモおじさん」。お弁当、青菜の和え物、コロッケは必ず買ってくれます。たまに店頭で並んでいない物を要望される時があります。
- 子どもを遊ばせた帰りに時々お弁当を買いに来る「若いお母さん」。1歳のお子さん（男の子）が「ぼらん」の塩サバのお弁当が大好きだとか。たっぷりお昼寝できるよう毎日いろんな場所で子どもを遊ばせているんですって。「ぼらん」のお弁当をお腹いっぱい食べて楽しい夢を見てね。
- 「ぼらん」の近くの整形外科に通う「おやつコロッケ大好きおばさん」。病院の返りには必ず寄ってくれ、おやつコロッケをあるだけ買ってくれます。また、その整形外科に努めているおばさんも「ぼらん」のお得意様です。ちょっと変わった惣菜や自分の好物があると仕事帰りに寄ってくれます。そのまま通り過ぎようとする時も、〇〇さ～ん！と声をかけると、何やかやと買ってくれます。

- 車で乗り付け、気に入った惣菜があるとあるだけ買ってくれるおばさん。煮物が大好きで、煮物のパック詰めがあるとぜんぶ買っていきます。東戸塚や霧が丘の「にんじん」にも買いに行くそうです。安全な食べ物への関心が高い方なんです。
- 区役所の職員さん達にも「ぼらん」のお弁当を利用してもらっています。若い女性为中心ですが、いつも「鶏のネギ塩」をお弁当のおかずに注文する若い男性もあります。
- 2階にある「ヘアサロンつどい」の息子さんにも利用してもらっています。彼は「信田巻き」が大好きです。

こんなふうに、「ぼらん」はさまざまなお客さんに支えられています。店頭ではそれぞれのお客さんと「ぼらん」で働くメンバーとの間で、いろんな世間話に花が咲きます。

店頭でのほっとするひとときと、美味しい惣菜を提供することで、地域の人たちに愛される「ぼらん」であり続けることも私たちの願いです。

